左へ左へ

(七)

第八章 社會主義と勞働組合

江羅直三郎

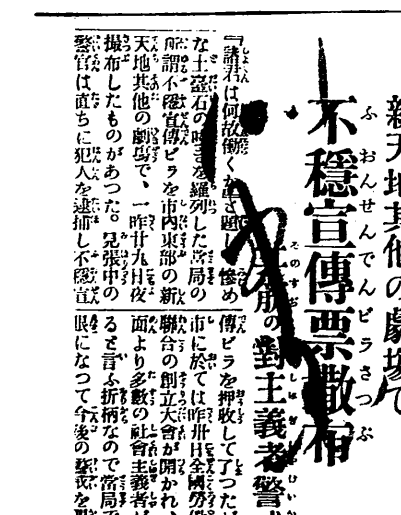
(一)

社會主義と勞働組合の關係に就いて、眞に其目的を達せんとするには、社會主義に歸依なければならぬ理由を說明して置よう、先づ勞働組合は勞働者の權利を保護し且つ之が伸長せんが爲めには、悉く資本家に壓迫せられ、或る種の勞働組合主義者の言ふが如く、又歐米勞働組合が奏したる効績は實に偉大なものである、其當初は社會より指斥せられ、政府の反對と干渉に沮まれて、容易に能力あるものとは信ずることが出來なかつた、而し、年を追ふて盛大となり、今日に至つて斯く社會の同情に得、且つ法律の肯定せられて資本家の便宜に任せ勝手に解雇せられて、忽ち飢餓に迫ると云ふ悲慘である、彼等が目的である、資本家に其利潤を壓迫せしめないやうにして己れも亦正當なる富の分配に與からんと欲して團結するのである、其目的は偉大なものであるが實際の事實は然らず、歐州各國に於て勞働組合の起りし當初は、其權利の如きは全く認められず、其團結運動に依りて、勞働者は在來の悲境を脫して稍其權利を擴張し得たるのみならず、社會の一要素として其の頭角を現はすに至つたのである、而し勞働組合は勞働者の爲めに決して最後の救主ではない、勞働者の希望目的とは何?……單に賃銀の額を高め己れと家族を養ひ得る程ならば足りると言ひ、若くは勞働時間を短縮して八時間乃至九時間を爲し得れば可なりと言ふが如き小希望、小目的ならば今日の勞働組合或は其約言せば勞働組合は多數の團結運動に依りて、勞働者は在來の悲境を脫して稍其權利を擴張し得たるのみならず、社會の一要素として其の頭角を現はすに至つたのである、而し勞働組合は勞働者の爲めに決して最後の救主ではない、勞働者の希望目的とは何?……單に賃銀の額を高め己れと家族を養ひ得る程ならば足りると言ひ、若くは勞働時間を短縮して八時間乃至九時間を爲し得れば可なりと言ふが如き小希望、小目的ならば今日の勞働組合或は其約言せば勞働組合は多數の團結運動に依りて、勞働者は在來の悲境を脫して稍其權利を擴張し得たるのみならず、社會の一要素として其の頭角を現はすに至つたのである、而し勞働組合は勞働者の爲めに決して最後の救主ではない、勞働者の希望目的とは何?……單に賃銀の額を高め己れと家族を養ひ得る程ならば足りると言ひ、若くは勞働時間を短縮して八時間乃至九時間を爲し得れば可なりと言ふが如き小希望、小目的ならば今日の勞働組合或は其約言せば勞働組合は多數の團結運動に依りて、勞働者は在來の悲境を脫して稍其權利を擴張し得たるのみならず、社會の一要素として其の頭角を現はすに至つたのである、而し勞働組合は勞働者の爲めに決して最後の救主ではない、勞働者の希望目的とは何?……單に賃銀の額を高め己れと家族を養ひ得る程ならば足りると言ひ、若くは勞働時間を短縮して八時間乃至九時間を爲し得れば可なりと言ふが如き小希望、小目的ならば今日の勞働組合或は其

◇退去を命ぜられた陳春培

新天地其他の劇場で 不穩宣傳票散布 大阪の對主義者警戒

『諸君は何故働く事を嫌惡するか』と題した十數種の印刷物を、大阪市に於ては昨日全國勞働組合總聯合の創立大會が開かれ、東京方面より多數の社會主義者が西下するとの事から折柄なので當局では、血眼になつて今後の警戒を厲行した



◇退去を命ぜられた陳春培

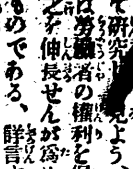
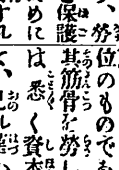
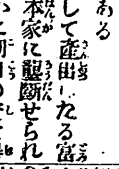
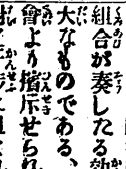
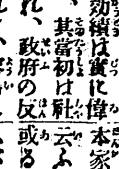
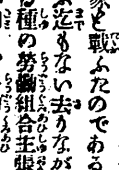
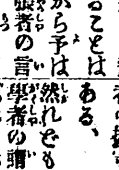
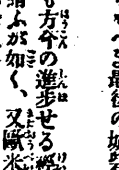
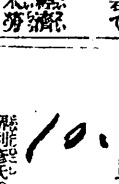
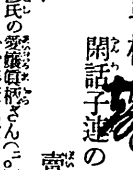
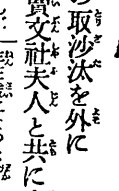
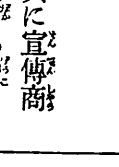
新天地其他の劇場で 不穩宣傳票散布 大阪の對主義者警戒

『諸君は何故働く事を嫌惡するか』と題した十數種の印刷物を、大阪市に於ては昨日全國勞働組合總聯合の創立大會が開かれ、東京方面より多數の社會主義者が西下するとの事から折柄なので當局では、血眼になつて今後の警戒を厲行した

傳ビラを押收して了つたが、大阪市内東部の新天地其他の劇場で、一昨廿九日夜撒布したものがあつた。兇張中の警官は直ちに犯人を逮捕し不穩當なふものは頭の中に描き出してみるその機械が、絕えず、自分の喉を締めたり、胸倉を捕へたりして危害を加へようとする——と憤慨して居たのだ。家の内に居る機械が自分をいぢめる。こりや警察の手を借りて保護して貰はにやならん。と其男は本署へ出頭して保護方を願ひ出た。もとより精神病者のことで、さうした妄想觀念に惱されてゐるものを、警察の手で何うすることも出來ない。すると、其精神病者は、自分が依然したたにも拘らず、機械の爲に危害を加へられようとしてゐる自分を保護して呉れぬ——と憤慨して居た

成濟したり 眞柄 大道商人 閑話子連の取沙汰を外に 賣文社夫人と共に宣傳商

堺利彦氏の愛嬢眞柄さん(ニ)が家出をして、府下淀橋町柏木四〇五の同じ主義者中曾根滋和氏の許に身を寄せたので、閑話子連は、やれ

▽戀の爲めだ の、繼母と折合ひが惡いからだの、と種々風說を流布してゐるが、二三日前から戸塚源兵衛に寄文社を經營してゐる高津正道氏夫人たか子さん(こもと二人で、江戸川山吹町の通りに夜店商人として現れた、一口に大道商人と云つてもバナヽや林檎を賣るのではなく、山川均氏の筆に成る『勞農露西亞の經濟組織』『タンクの水平父君彦老の『社會主義者の世になつたら』『社會主義の經濟組織』『社會革命の實際』等のパンフレット『小學教師に與ふ』『地主と小作人』等のリーフレットで、店を飾つた主義宣傳の商人である、定價はパンフレット十錢、リーフレットが一錢だが、それでも一晩に大丈夫三圓位は賣れるさうだ、閑暇のたか子さんはお

▽熱心に斡旋 してゐるが昨夜早稻田終點の店頭で偶然さんは語る、何の爲めでて、何時迄も他人の厄介になつて居られません から、無論是から獨立やります、此處へは今夜來たゞけで、大抵は江戸川の方で儲る事にしてゐます